

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1475200885
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス
事業所名	グループホーム バナナ園ほりうち家
訪問調査日	平成22年9月3日
評価確定日	平成22年10月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475200885	事業の開始年月日	平成16年8月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス			
事業所名	グループホーム バナナ園ほりうち家			
所在地	(211-0062) 川崎市中原区小杉陣屋町2-1-12			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年8月25日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月16日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.bananaen.com
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着を開設当初から行っており、運営推進会議も概ね2ヶ月に1回行っている。 ・定期的にボランティアによるハーモニカ演奏会も行っている。 ・職員の定着率が高いため、入居者に対するコミュニケーションも良好。 ・入居者一人一人の人格を尊重して、自由に楽しく、明るい生活支援を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年9月3日	評価機関 評価決定日	平成22年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームの特徴</p> <p>①経営母体は株式会社アイ・ディ・エスで、バナナ園生田の杜を新たに加えて、グループに7つのグループホームを持っている。オーナーはグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホーム展開が為されている。バナナ園ほりうち家は東急東横線新丸子駅下車徒歩8分とアクセスが良く、中原街道に近く大通りからは少し入っている為、交通量も少なく平坦な道で、古い商店街に面した環境にある。日本医大付属第二病院、聖マリアンナ東横病院等徒歩圏内に大型病院があり応急体制も整っている。本部にて月1回管理者会議、主任者会議等の勉強会が開催され、相互の情報交流が図られている。ホーム運営に関しては、画一的なものでなく夫々の管理者の主張が、ホームに反映され特色のある運営がなされている。バナナ園ほりうち家では利用者の人格を尊重し、家庭的な雰囲気の中で自立支援を行っている。</p> <p>②ここバナナ園ほりうち家は近隣との関係を大切に、町内会長から県議員の方々にバックアップを頂きながら「ほりうち会」を開所当初から継続して実施している。運営推進会議も利用者会議、家族会もこの「ほりうち会」と一体化して進めている。運営推進会議は地域包括支援センター、地域の方それぞれにご家族を加えて、おおむね2ヶ月に1回の割合で開催出来ている。町内の行事、お祭り、盆踊り等への参加、ご厚意による近隣宅でのお茶会や、みかん狩りの招待等、町内の方々とも密接な関係にある。毎月、バナナ園ニュースを利用者と一緒に、近隣の方々にポスティングを行っている。管理者は「ほりうち会」の維持・継続のため、挨拶訪問先を決めており、管理者自らバナナ園ニュースを持参、配布すると共に、交流会のお知らせやご案内をし、情報も頂くよう努めている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム バナナ園ほりうち家
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の中で周知されている「明るく・楽しく・自由」はほりうち家全体にて実践され、入居者の安心が図られている。	理念の「明るく・楽しく・自由」はほりうち家全体にて実践され、管理者を始めとしてほりうち家全体で大切にしている地域との集り「ほりうち会」を通じて、地域との密接な関係を築いている。入居者の安心が図られている。理念は職員の中で周知されている	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念に基づき、地域の中で一人一人が、暮らしていく上でお祭りなどに参加している。近隣からの招待でお茶会などに参加。日々入居者本位の暮らしを送る。	近隣との関係を大切に、町内会長から県議員の方々にバックアップを頂きながら「ほりうち会」を開所当初から継続して実施している。町内の行事、お祭り、盆踊り等への参加、近隣のお宅でのお茶会やみかん狩りの招待など町内の人とも密接な関係にある。管理者は「ほりうち会」の維持・継続のため、挨拶訪問先を決めており、管理者自らバナナ園ニュースを配布すると共に、交流会のお知らせやご案内をし、情報も頂くよう努めている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議（ほりうち会）において地域の方々の参加を呼びかけしている。毎月バナナニュースをポスティングして知らせている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度行い、区担当者、県議員、包括支援センター、家族、地元の方が参加されており、その内容は議会録として残し、ホームページ上で開示している。	運営推進会議は、利用者会議、家族会もこの「ほりうち会」と一体化して進めている。運営推進会議は概ね2ヶ月に1度開催し、区担当者、県議員、包括支援センター、家族、地元の方々が参加し、その内容は議会録として残し、ホームページ上にも開示している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター、民生委員、県議員の方々と運営推進会議で話し合いが行われている。	開所当初から継続している「ほりうち会」には包括支援センター、民生委員、県議員、区担当者の方々が参加しているので、協力関係は長く深く結んでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の出入りは自由であるが、見守りを怠らない様になっている。徘徊する入居者の為、施錠せざるを得ない場合もある。	身体拘束をしないケアに取り組み、実施出来ている。全ての職員は身体拘束の弊害を理解し介護を実施している。玄関の出入りは自由であるが、見守りを怠らない様にし、施錠は行わない方針である。徘徊する入居者の為、施錠せざるを得ないケースは稀にある。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社理念を念頭に置き、出来る限り拘束を避けるケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あんしんセンター、包括支援センター、福祉事務所の方々から意見を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にGHについての説明を十分にし、GHは家族の協力が必要である事を、特にお伝えし、理解の下協力を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で意見を汲み取る様心がけている。ご意見箱を玄関に用意し、意見を出しやすくしている。運営推進会議に反映させる様になっている。	利用者本人の意見は、日々のケアの中で汲み取る様心がけている。家族の意見はコミュニケーションを大切に、日々の暮らしぶりを、面会時や毎月のお便り等で行っている。時には電話等でも報告するようにしている。ご意見箱を玄関に用意し、頂いた意見等は、運営推進会議に反映させる様になっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議に取り上げられている職員の意見を反映している。	職員の意見は、管理者会議に吸い上げ反映するようにしている。マナーチェック表、衛生チェック表、自己評価等を行い、管理者と話し合い、本部にも伝えている。個人的にも面接を行い、話を聞くようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ及び向上心を高める為、人事考課制度を取り入れた。これを踏まえ、研修開催による資格取得の推進・昇格・昇進などに行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において定期的な職位別研修を行っており、人材育成に取り組んでいる。新任研修に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人自ら研修会で対外的に実施している。管理者、職員が交流を図れる様に機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の意思を尊重し、面接、アセスメントの段階で安心して頂ける様に、話し合いの時間を十分に設ける。お茶・昼食の時間を利用してコミュニケーションを図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談は常に答える様にしている。アセスメントは時間をかけ、ゆっくりと傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	2人以上で面談をし、ケア会議で意見を出し合い、ニーズ等を職員内で共有する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との関わりが如何に大切か、職員が理解している。「共に生きる、共に寄り添う、共に成長する」心で支援している。お互い、「ありがとう」の気持ちの声かけも忘れない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、家族の来園により、外出や話し合いの場を支援する(家族の協力を大切にする)。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちが遊びに来易いよう環境を整える。電話等の橋渡しができる様にしている。	馴染みの人たちが遊びに来易いよう環境を整えている。電話等の橋渡しも出来る様にしている。町内の行事等への参加、近隣との交流など、町内の人達とも密接な関係を築いている。毎月、バナナ園ニュースを利用者と一緒に周辺の方々にポスティングする等、ここが自分の家であると思って頂けるよう、地域との馴染みにおいても支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の個性を把握し、その場の雰囲気を知り、係わり合い、支えあえる支援作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で状況の相談を受けている（必要に応じて、他施設等の相談も）。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアにおいて、一人一人の希望・意向の把握に努め、本人らしい生活が送れる様、心がけている。	日々のケアで、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、本人らしい生活が送れる様に心がけている。一人ひとりの希望・意向はモニタリングにまとめ、介護計画に反映している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族とのアセスメントをしっかりと行い、その後との暮らし方等、職員全体が周知し経過を見守る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	明るく、自由に、楽しくの理念に則り、日々のケアより職員が現状把握している。引継ぎや申し送りを徹底している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケア、ケア会議、家族の面接時、運営推進会議等で得る情報を生かし、介護計画を作成している	介護計画についてはバナナ園グループ全体でICFの考え方をベースとして推進することとなっており、先ずアセスメントの書式の統一に向けて取り組んでいる。日々のケア、ケア会議、家族の面接時、運営推進会議等で得る情報を生かし、介護計画を作成している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少なくとも3ヶ月に1度は見直しが行われている。必要であれば随時見直しを行い、医療機関とも協議を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ、外出、買い物の援助、家庭菜園等も活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、近隣の方のお茶のお誘い等に参加。楽しい暮らしの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の連携が行われている。隔週での往診、毎年の健康診断、予防接種も行われている。緊急時対応、随時相談可、信頼関係を築けている。	24時間の連携が行われている。隔週での往診、毎年の健康診断、予防接種も行われている。緊急時対応、随時相談可、信頼関係を築けている。ほとんどがかかりつけ医の往診を受けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護を月2回、各2時間かけて行っている。個々の情報を看護婦と共有、入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を中心にして、病院関係者との情報交換、相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に関わる指針を説明し、家族に理解して頂いている。入居者の状態を把握して対応が円滑に行える様、職員は情報を共有している。	ご家族に、契約時の際、重度化した場合の対応について指針を説明し、理解して頂いている。また、職員は入居者の状態を把握し、対応が円滑に行える様、情報の共有に努めている。重度化した場合や終末期にはご家族、かかりつけ医、ホームの3者で話し合い、方針を再度決めることにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、看護師と話し合い、事故発生時に備えて、速やかな対応を心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合訓練を行っている。	毎年、年2回総合防災訓練を行い、災害時の避難場所等の設定も、近隣の駐車場を事前に契約しておく等、協力を得ている。備蓄は水程度は持っている。町内会の総会には必ず参加するようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、言葉かけや対応に注意している。	言葉掛けや記録は毎日繰り返されることを踏まえ、一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応により、利用者お気持ちを損ねることがないように注意している。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	短い言葉で説明するのを心がけ、見守る。行動や雰囲気が必要と判断すれば、支援する。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由の原則に則り、臨機応変に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の意思で選択出来る様促す。整髪等の声かけ支援。2ヶ月に1度訪問理容を利用して頂いている。清潔感を保つ心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意思を尊重して、自身で準備・片付けを毎回行っている。メニュー等を一緒に考えて能力に応じて手伝いをして頂いている。	メニューは利用者と一緒に考え、共に買い物に行き、食べたいものを言ってもらって食事を作る等、ホームならではの食事を楽しんでいる。本人の意思を尊重して、自身で準備・片付けをする等、能力に応じてお手伝いをして頂いている。早朝の朝食の準備は皆が手伝ってくれている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養のバランス、形態（刻み食等）に配慮して記録に残し、一人一人の状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアを心がけている。訪問歯科医との連携を取っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力で排泄できる方が多いが、リハビリパンツの使用者もいる。汚染による不快感を与えない様注意し、行動や表情を見守る。	排泄について、自力の方が多く、中にはリハビリパンツの使用者もいる。職員は、汚染による不快感を本人に与えない様注意し、個々の行動や表情を見守っている。声かけが必要な方は3人程度で、尿意・便意を感じ取り、トイレ誘導する様、職員は常に気を配っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し、体を動かす事を心がける。水分摂取や繊維質を多く取り入れる等の配慮をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思や体調を尊重し、週2度の入浴支援を心がけている。	入浴は、本人の意思を尊重し、またその日の体調を考慮しながら、週2回の入浴を支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健やかに安眠をして頂ける様、日中の過ごし方や活動に留意する。また、写真等私物を自室に設置することで、安心感をしえんしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、薬剤師等のアドバイスを受け、服薬状況を把握し、誤薬しない様努める。服薬をセットした者はサインを明記をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備、洗濯物干し・たたみ、掃除、レクリエーション(トランプや歌)のリード等それぞれ役割分担を心がけている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	徒歩での買物、散歩、日中のカラオケ(希望者)、お祭り、運動会等に出かける。	一人ひとりのその日の希望に沿って、徒歩での買物、散歩、日中の、希望者にはカラオケ、お祭り、運動会等に外出の機会を設け支援している。車が必要な時はデイサービスの車を借りている。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使用して、買物をする楽しみを味わって頂く様心がけている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望ある時だけでなく、日中の生活状況等を踏まえて、いつでも家族と交流できるように支援する。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた雰囲気に配慮し、カレンダーや写真、季節の飾り物などで工夫している。	リビング、サンルームとも十分に広いとは云えないが、日本の家庭らしい手ごろなスペースで、皆さん仲良く、明るく、落ち着いた雰囲気で過ごしているのが視察で伺えた。カレンダーや写真、季節の飾り物、作品などを一緒に張り出し、工夫して快適に過ごしている。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他、リビングルームを確保、2階にソファを設置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、カレンダー、写真等好みの物を自由に置いて頂いている。	使い慣れた家具や置物、カレンダー、写真等、本人の好みの物を居室内に自由に置いて過ごして頂いている。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段は両手で手摺を掴み昇降している。毎日のリハビリにもなっている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園 ほりうち家

作成日

平成22年9月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	家族等外部参加者が偏っており、平均3名となっている。	より多くの参加者を集い、平均5名を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日や時間帯の見直し ・定期的なボランティアの確保・継続 ・交流会に対してのスタッフの意識 	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。